
ある兵士の告白

カッシスワーム ディザスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある兵士の告白

【Nコード】

N8376N

【作者名】

カッシスワーム デイザスター

【あらすじ】

特に何でもない、いつものどろりの偵察任務だった。『あれ』が現れるまでは…

俺は見た！人々を守るために戦う、黒い太陽の子を！！

初投稿なので緊張しまくりです（笑）

すえながく、よろしく願います！！

(前書き)

ヒーローはね…風のように現れて…嵐のように戦って…

そして…必ず

朝日と共に帰ってくるんだ

本当、あの時はシャレにならなかったよ…
今でもよく覚えてるよ。

あの時の俺は銃があれば何でも出来ると思ってた。

知ってるか？ 『M4A1カービン』？ 合衆国の主力だぜ？ 解るか？ 世界最強の軍隊の主力。
つまり、世界最強の銃だ！

…そのはずだった…

2年前…

アフガニスタン・深夜

ダダダダン

パン パン

「クソッ！何で聞かなんだ！！」

「俺に聞くな！！」

「俺達は世界最強の軍隊なんだぞ！何のに何で…！！」

突然のことだった。ソイツは地面の中から現れて、瞬く間に俺の仲間を殺していった。残ったのは俺を含めて三人。

「ヒヒヒヒヒ」

まるで俺達を嘲笑うみたいにその『サボテンの怪人』笑った。まるで野球のバッターみたいに手に持ったこん棒をグッルン、グッルンと回している。

もう終わりだ…っと思った時だった。

ブオオオオオン！！！！

一台の青いバイクがこちらに走って来る。どことなくバッタに似ていた。

バイクから一人の男が降りてきた。

「おい！何してる、早く逃げろ！！！」

仲間の一人が叫んだが、男は聞く耳を持たなかった。

「サボテグロン！やはりまた何かを企んでいるのか！シヨツカー！！！」

最早何が起こっているのか理解できなかった

男は「変身！！！」と叫ぶと右手を腰に、左手を顔の高さに構えた。

そして、今度は右手を夜空に向けて伸ばし、さらに右手を胸元まで振り下ろし、左へ振った。そして、右手を腰に戻し、左腕を右横に出して、最後に両手を最初の位置に戻して止めた。

すると男の身体は真っ白な光に包まれた

そして光がはれるとそこには黒と緑の装甲に身を包んだ異形の戦士がいた……

彼は高らかに叫んだ……！！

「俺は太陽の子！仮面ライダーBLACK RX！！！」

仮面ライダーは腰のベルトに手をかざして「リボルケイン！！！」と叫んだ。

するとベルトから光の剣が出てきた。

仮面ライダーはサボテンの怪人と激しい戦いを繰り広げた。だが最終的に二人は長いつばぜり合いに入った。（まあ、つばはなかったけど…）

「クソッ！化け物め、仲間の敵だ！！」

ダダダダン

「ギヒ！ヒ！ヒ！ヒ！！」

頭に命中。特にダメージは無さそうだ。

だが…空きを作るには十分だった！

「リボルクラッシュ！！」仮面ライダーはリボルケインをサボテンの怪人の腹に突き刺した。

怪人の腹から火花が吹き出した…

仮面ライダーがリボルケインを引き抜くと…

サボテンの怪人は「ギヒー！！」と断末魔の悲鳴を上げ、大爆発を起こした。

爆発が止むと仮面ライダーが立っていた。

「勝負の邪魔をして悪かったな」

気が付いたら、俺は彼に話しかけていた。恐怖は無かった。

「いや…ありがとう。おかげで助かった。」

実に普通の返答だった。

「どういたしまして」

「お互い様だ、ありがとう」

仮面ライダーは少し俯いて「すまなかった…」と謝った。

「…えっ…」

俺達三人は驚いた

「俺がもっと早く来ていたら、こんなことには…」

回りには、数時間前まで一緒に話していた仲間達の骸が散乱していた…

「アンタは良くやってくれたよ」

気が付いたら、俺は肩に手を置いていた。

「人間の出来る範囲なんて限られてるんだ、アンタはその範囲で良くやってくれた」

「フツ…人間か。ありがとう」

彼はバイクに向かって歩いて行こうとした

「待ってくれ！」

俺は彼を呼び止めてしまった。

彼はバイクに股がり、こちらに振り向く。

「アンタは何者なんだ…？」

「俺は…いや、俺達は」

仮面ライダーだ

これが俺の体験した話

多分、今でも彼は…いや彼ら戦ってるんだ。
誰かのために…

(後書き)

初投稿は私のバカさ加減を皆様に露見する結果に終わりました…
次の投稿をお楽しみに！

これは、まだ始まりに過ぎない…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8376n/>

ある兵士の告白

2010年10月28日03時57分発行